

オープン
カレッジ

写真は「洗髪槽」といって、ベッドの上で洗髪を行う看護用品である。これを考案したのは、岐阜大学医学部看護学科の社本生衣准教授である。氏は、看護ケアで、とりわけ洗髪技術の研究では、日本の第一人者です。定量的データに裏付けされた、根拠に基づいた研究を行っている。

この製品は、脊髄損傷などで安静が強いられたり、呼吸器・点滴などの装着が理由で、ベッドで寝ている姿勢で、生活されている患者を想定している。洗髪槽

洗髪槽で看護技術の向上



岐阜大学社本研究室とタナックが力を合わせる

る限りの汎用部品を集め、それらを試行錯誤して試作品を作り、空気の封入排気と、排水の実験を繰り返した。

そこでたどり着いたのが、排水口を底部の中央先端部に取り付け、マットレスとヘッドボードの隙間に排水ホースを通し、左右に振り分けることにした。次に、底部のシートを二層の袋状にし、中に左右二枚の底板を配置した。中央に枕を置くことで、患者の頭の重さで、左右の底板がV型に変化する仕組みで、排水を中央に集め、スムーズな排水を可能にした(特許出願中)。この底板は、二つ折りにすることで、コンパクトな収納となる。加工には、接着剤や二次部品を使用せず、全てを溶着加工のみの仕様とした。完成品を見てしまえば当たり前な事柄でも、社本准教授との連携と、メーカーの協力を得た、トライアンドエラーの代物である。

看護とデザインの 連携による商品開発

には既に先行商品はあるが、この洗髪槽は、機能面・衛生面・収納面において格段に優れている。



岐阜大学生活科学部教授
山女学園大学生活環境デザイン学
滝本 成人

滝本 成人

快適な洗髪には、頭皮に石けん成分が残らないように、十分な湯量の使用が求められる。それを効率よく排水することが、大きな課題であった。また排水先は、看護師の立ち位置によって、左右両方向が求められた。次に設計においては、新たに接続部品を設計すると、生産コストが上がることから、汎用部品のみで設計することが求められた。メーカーに依頼し使用できる限りの汎用部品を集め、それらを試行錯誤して試作品を作り、空気の封入排気と、排水の実験を繰り返した。そこでたどり着いたのが、排水口を底部の中央先端部に取り付け、マットレスとヘッドボードの隙間に排水ホースを通し、左右に振り分けることにした。次に、底部のシートを二層の袋状にし、中に左右二枚の底板を配置した。中央に枕を置くことで、患者の頭の重さで、左右の底板がV型に変化する仕組みで、排水を中央に集め、スムーズな排水を可能にした(特許出願中)。この底板は、二つ折りにすることで、コンパクトな収納となる。加工には、接着剤や二次部品を使用せず、全てを溶着加工のみの仕様とした。完成品を見てしまえば当たり前な事柄でも、社本准教授との連携と、メーカーの協力を得た、トライアンドエラーの代物である。

医療や介護の領域を、人的労力だけで解決するには、おのずと限界がある。そのことから看護用品の開発は、必要不可欠となる。看護師が求める根拠に裏付けされた機能の追求と、技術に裏付けられた工業デザインと、それを量産体制に具現化できるメーカーとの、三者の連携こそ、今後の看護技術の向上につながることを確信している。

たきもと・なりひと 工業デザイン。名古屋工業大学大学院博士後期課程社会学専攻修士。博士(工学)。